

オリーブの樹

第153号

2021年3月7日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 冬の歌 重信房子
P 3 独居より 重信房子
P 14 動き出した中東 2021年 重信房子
P 16 トランプ時代からバイソン時代へ（付記） 重信房子

冬の歌

重信 房子

振り向いて泣ききうな顔懸命に笑顔に代える別れの君は

再会し謝るわれに時効だと涙で笑みし母想わるる

羊飼いと羊の群れの息白く逆光浴びて草原輝く

はやかさの光を浴びて輝ける漆黒の闇に希望の一筋

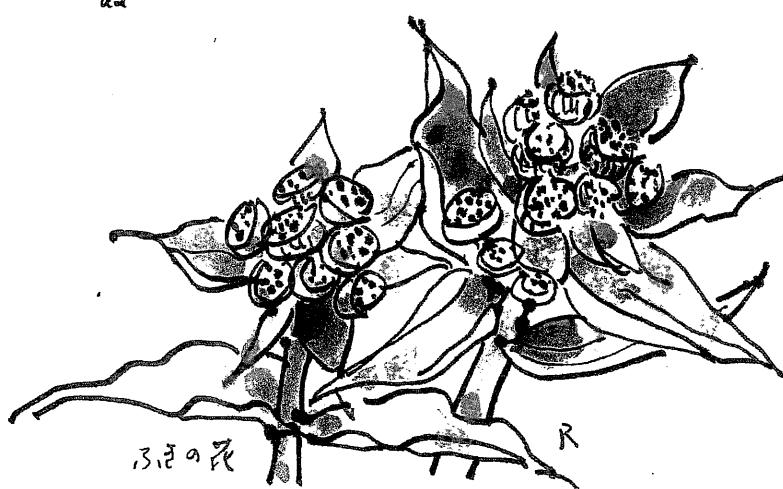
ぬばたまの闇紅に燃え始む宇宙の底から冬至朝焼け

わだかまる小さかな棘に触れぬまま別れた友が気になる冬の庭

だんだんに黒く濡れ初もアスファルトみつめ齧齒の言い訳探しぬ

喪服脱ぐ纏わりついた哀しみ一枚一枚剥ぎとりながら

風に立ち獄舎搖るがし叫びたし友パレスチナで殉教と知る



独居より 1月11日～21年2月5日

緊急事態宣言、まず補償を！ 刑事罰などとんでもない！

重信 房子

11月11日 快晴が続きます。南向きなので陽が入るのですが、ベランダ運動は北向きなので、やっぱり寒い。今日は、10月分の報奨金の告知がありました。7円30銭から10月分は1時間9円40銭にアップ。10月の合計は705円でした。「オリーブの樹」とリベラシオン用に「トランプ時代からバイデン時代へ米国の中東政策」という一文を11/8のバイデン当選確実を受けてすぐ記しました。資料入手できないままでしたので、あまり踏み込んだコメントにはなりませんでしたが。

11月12日 昭島の最高は15度、最低5度と、だんだん冬暦になりつつあります。

点呼後、大谷先生からお便り。私の方から紙千切りの刑務作業について中止を求めて苦情申し出をしており、解決しないなら法務大臣宛の苦情か裁判かと、大谷弁護士に相談したためです。東拘の初代観察委員会委員長として「この分野は、専門です。苦情処理の代理をします」と力強いお便りと、委任状の用紙を送って下さいました。でも、「紙千切り作業報告その2に代えて」と、11月9日付の日誌で、記したところでした。つまり、私の当センター長への「苦情申し出」は「未決定」で却下、「自分の考えを述べたものにすぎない」との回答でしたが、懲役作業としては、5ミリの紙千切り作業は中止されました。そして、「だるま作成作業」に戻り、すでに工房通いが9日から始まっているので、一旦更なる法務大臣への申し出や、裁判は、とりやめることにしました。大谷先生の心強い援護を、ありがたく受け、委任状は、まだ未交付ですが、記入の上、返送しておこうと思います。今後のために思っています。

11月19日 昨日も今日も春風のような風がベランダを吹き渡っています。さっき夜7時のニュースで大阪は今日26.6度だったとのこと！

Iさんから資料類届きました。その中にプレステートメント(PFLP)があります。「バイデ

ン大統領の勝利はパレスチナの人々の権利に関する根本的变化はもたらさない」と述べ、「すべての占領を終わらせ、東エルサレムを首都とするパレスチナ国家建設、民族自決、民族の統一をPLOを中心として民主主義的政治システムの構築」と訴えています。バイデンばかりか「国連の反イスラエル偏向」を批判し、イスラエルと米国は党派を超えた同盟を築くべきで、それを発展させるために闘うと主張してきたカマラ・ハ里斯副大統領含めて、根本的変化はもちろん期待できません。イスラエル政府は「青と白」党首であるベニー・ガント大臣が11月に入って「西岸地区およびイスラエルの9つの入植地で1700戸の住宅を新設する」と述べ、8月にはガザ地区付近に新たな入植地建設を決めています。9月末までに刑務所には4400人のパレスチナ人が収監され、うち700人が女性との資料も。ハマスのハニヤ政治局長はバイデン政権にトランプの「世紀の取引」の米中東和平案、エルサレムへの米大使館移転は国際的決議に反し、反対されているとして、それらの行動を取りやめるよう求めたとのこと。さて、中東はどう変わるでしょう。非アラブのイスラエル・トルコ・イラン・ロシアが中東問題、とくにアラブ問題で今後バイデン政権とどういう対応をとるか注目しています。混沌は続くでしょう。

11月24日 連休明けて今日から急に寒くなりました。久しぶりに和尚の法要面会の機会を得ました。読経も声が朗々として気持ちが良いです。今日は経産省前テントでの祈祷団の祈りの日。これから向かうと、大忙しの和尚です。「法要の話のみ許可」と念を押され、土曜会の話も出来ないけれど、土曜会の気持ちも交流させ、楽しい一時を過しました。

夜は点呼のあとでお便りが届きました。Iさんは庭の柿の実収穫の様子！高枝切り鉄でブラック姫によじ登って、高い枝に鉄の先をひっかけてロープで引っ張ったり、鳥がついばんだ残りの

収穫は29個とのこと。楽しそうです。

10月に三池闘争60周年シンポがあったところで、「炭掘る仲間」がとてもいい歌だったとのこと。私も覚えています。「みんな仲間だ炭掘る仲間～♪♪♪」という歌です。なつかしく読んで思い出しました。Uさんからは11/7の新宿ロフトのよど号H J 50周年トークイベントのMさんの報告を伝えて頂きました。「帰国問題以前に、何故H Jやったのか？赤軍派の闘いの教訓を除いて帰国問題語るのは疑問あり」とMさんは提起したようです。第二部では、蓮池透さんの発言が良かったとか。「拉致問題は解決できない。関わっているのは日本会議らすべて安倍政権の補完組織であり、政権は解決しないで引き延ばすことに意味があるのだ。朝鮮が敵国であり続け、拉致被害者の家族が死んでしまうのを待っているのだ」と。国交正常化からしか拉致問題は解決しないのは自明です。また、この間私の「20年目」の記事が出ていたと、送つてくれたとのことでチェックしてみます。今週受け取れるか不明ですが。

11月25日 今日はリベラシオンに書評「端境期の時代」を送りました。昨日の記事で国連人権理事会の「恣意的拘禁に関する作業部会」で日本の司法、拘留批判と「適切な救済策は日本政府が補償すべき」と、日本の検察の「手続き乱用」を明確に批判しています。世界基準から日本は酷すぎるのを、日本社会の人々は自覚できない環境にあると、つくづく思いつつ読んでいます。外国人被拘留者は、日本人よりもとても耐え難いでしょう。管理支配に子どもの時から慣らされていないので。



12月1日 もう師走。昨日四方田先生からお便りと本、「遊びの図鑑」という福音館書店の面白い本届きました。昔の私たちの遊びがしっかり絵図鑑になっています。気分転換によさそう！また、来年日本でも公開される「天国にちがいない」という映画、パレスチナ監督エリア・スレイマン作品のパンフも。四方田先生が書いています。スレイマンは言う。世界各地どこにいっても監視され、見えない抑圧、全世界がパレスチナになったように、自分はよそ者の世界。「全世界は今やイスラエルになろうとしている」と述べる四方田先生の考え方と私も同じ直観を持ちます。日本もソフトな言葉のその実、強権、警察国家化。そんなことを考えつつお便りを読みました。

12月1日夕方、宅下げ予定の昔の文章を「許可を得ずに、書き加えた」として不許可。「どこ？」と見たら、「12月1日に出すことへ」などの記入があつたためとのこと。これは2017年12月初めに送り、その後2018年9月に戻してもらった原稿の一部。12/1の偶然の一一致の書き込み。多分3年前に発送前に書いたらしいのですが、3年後と日付が今と一致で「嘘」のようにとられて、不愉快でロッカー中引っ掻き回して証明しようとしたけど、2017年の日誌はすでに宅下げしていない……。この原稿を派出所まで保持することになってしましました。

12月2日 寒くなりました。最高12°C、最低4°C。今日は検査のため終業2時間前に工房を出て部屋に戻り、着替えて待機。2時間半前から静脈への針入れ(造影剤投与時の分)、その後レントゲン胸・腹部、エコー検査、それからCT、その後心電図の検査、3時半ごろ終わりました。

この頃いろいろまた、処遇が厳しい。来年2月1日からエンピツ使用禁止。「なんとか令」(?)によるみたいなので、全国的かも。ようは鉛筆削りを回収したいためのようで、色エンピツ含め不可。シャープペンのみに。腱鞘炎で4Bエンピツ使っていたのも、来年からは使えません。また、私の手紙の字が小さすぎて、規定の字数にそって書くようにと「指導」を受けました。

12月4日 夜7時のTVニュースで大飯原発の再稼働差し止めを求めていた友人たちの大飯地裁

判決で勝訴と知り、私も嬉しいです。原子力規制委員会の審査の違法性を明確にしたこと、全国の原発、稼働中も含めて問い合わせられ、ストップするといいのですが……。菅首相は10月に2050年に温室効果ガス排出ゼロを表明しましたが、それは原発再稼働とセットになっています。これにも影響を与えるといいのですが。だいたい地震大国の日本に原発は不可。日本に再び脱原発の波をと、来年の3・11を思いつつ描いています。

12月7日 金曜日に医務からインフルエンザと肺炎ワクチンに関する説明文を渡されました。読んだ上でさきほど「ワクチンを接種します」に署名。押印しました。

届いた資料の中にマラドーナの死去の特集があり、「マラドーナがパレスチナ支援していた」という話に、へえー！と思いつつ読みました。なぜなら1982年ペイレートがイスラエル軍に包囲された最中のことです。丁度ワールドカップサッカーでイタリアチームが優勝しました。当時世界の良心がイスラエルの侵略を非難し、パレスチナに連帯を表明していた時です。イタリアチームはこの優勝カップを、パレスチナの抵抗の闘いに連帯して、勝ったら贈ると宣言し、実際その通りPLOに贈り、包囲下の私たちを喜ばせました。その時、マラドーナはイタリアチームと対立していたのか「我々が勝ったらいスラエルに贈る」と表明して、ペイレートで悪評でした。「貧しい時にユダヤ人に助けられたらしい」という人もいましたが。後にカストロと親しくなって心酔したせいか、パレスチナ支持なのでしょう。

イスラエルのネタニヤフ首相が秘密裏にサウジアラビアに行き、ムハンマド皇太子と会ったというニュースは、ネタニヤフ側が流したみたいです。PFLPは「サウジ王家は西側諸国、米、シオニスト政権イスラエル諸政策や計画の地域における実践者だ」と批判。ハマースも「ネタニヤフ首相のサウジ訪問はイスラム共同体を侮辱した上に、パレスチナ国民の権利を無視したものだ」と批判しています。BDSジャパンの資料に、オスロ合意に至るまでのドラマを描いた劇「OSLO」が来年2月に東京の新国立劇場・中劇場で上演されるとのことが出ています。これもへえー！です。獄に座している間にスマホ、テレワークあれこれ、

きっとついていけないスピードでコロナ世界は変わっているのでしょうか。変わらない人権の価値を基礎に、獄外・世界を注視していきたいと思います。

12月14日 だるま製作は順調です。今日は12月の花が届きました。赤いカーネーション1本とスプレー状の赤いカーネーション1本、それにクリスマスで松ぼっくりをシルバーに塗ったものに変わった葉の茎など。でも松ぼっくりは、不許可で一見の上、廃棄でした。Cさんの元気な便りと娘のステキな絵！“一年がほんとにアツという間。とりわけコロナ禍の中、一年が過ぎたという実感が伴わぬまま年を終えそう”とCさん。コロナの中、忙しく動き回っていますと、きっと、先日の大飯原発での勝訴と共に喜び、切れ目なく、三線抱えつつ「老朽原発うごかすな」を歌い連帶しているでしょう。そのCさんたちに連帶する私です。

味岡さんから「流砂」18・19号も届きました。18号を捲っていたら味さんの「続・全共闘白書」の「書評」が載っています。その中で、味岡さんは、私のアンケート回答に触れつつ、「読みながら、僕は彼女がある歌謡に寄せていた歌を思い出した。

『マルクスやトロツキー読み吉本読み、わたしはわたしの実存で行く』(歌謡「月光」62)。この歌はいつごろのものかわからないが、一瞬にしてあの時代のことを思い起こさせたのだ」と記しているのを見つけました。あ、味さんも「月光」歌謡を読んでいるのかと驚き、また、この一首に注目して下さったことは何だか嬉しい。もちろん「あの時代」のことです。GOTOトラブル(トラベルではない)部分中止らしいです。

12月15日 GOTOトラブルは、12/28~1/11まで全国で停止。その莫大な資金税金は旅行に行けない。医療、福祉施設で働く人々、そして特に低賃金の人やパート、学生などもっと有効なものに使えるのに。今日は人民新聞12/5号届きました。小倉さんの「監視国家化とIT利権化」菅政権デジタル庁構想に対する警鐘は同感。ガリコさんの西岸地区の入植地の拡大既成事実化報告もありのひどさに、1948年の民族浄化のままのイスラエル政府と軍に怒りと哀しみです。又、人民新聞社不当搜索国賠訴訟の進行も読みました。現実を国

オリーブの樹 第153号

際国内的に知るメディアとして、又、連帶するひとびとのひとつの砦として、いつも楽しみに読んでいます。2020年は、人民新聞を送って頂いたばかりか、パレスチナ解放闘争史作成にも協力頂き感謝しています。2020年の日本は「桜」も「改ざん」もひきずり、更に学術会議任命拒否に始まり「デュアルユーズ」、「学術会議独立法人化」など、問題をすりかえつつ、意のままに進めようとする動き、「便利」の名で「管理監視」・「警察公安価値観」の国家化へ官邸・デジタル庁など姑息に進められてきました。菅政権や「維新」の新自由主義政策の「革新・改革」が国民・市民の利益ではなく痛みであることは、コロナ禍で次々と露わになっているのでは?こんな時代に疑問をもつ上層から下層まで多様な人々の智恵と協議協同で、自分たちの暮らし方で対抗社会を主権の実体として形成していくチャンスにしてコロナも、のりこえてほしいと思います。人民新聞で報道されているように、パレスチナ問題の様々は、読むたびにイスラエル政府と自民党政府が似てきたとつくづく思います。「印象操作」、「開き直り」、「すりかえ」、「異論無視の既成事実化」、「公安支配」etc.世界は公安警察国家化し、世界の各国民はパレスチナ化、つまり周縁化され部外者化され差別され人権を失うかもしれない危険な時代だと改めて思います。2021年人権を基礎に環境、雇用、社会保障それに「日本政府がゴーンに賠償を払うべし」と勧告した国連人権理事会の常識が日本に通用するような社会へと、新年一歩ずつ進むことを願うばかりです。

12月16日 今日は和尚の除夜法要。面会室に入ったら、なんとパナソニックの性能の良いマイクが設置されていました!前には設置要請したのですが、却下されました。コロナ感染対策で通話用の小さい穴をふさぐ結果、みな聞きとり難いからでしょう。和尚のお経朗々のすばらしい除夜法要。和尚も私の声がよく聞こえてまるで仕切り壁がないよう!と喜んでいました。今年の法要面会のお礼、そして新年良い年に!と、ガラス越しの握手で別れました。

12月17日 今日はインフルエンザの予防接種をしました。12月のCT、エコー、レントゲン、

心電図の検査結果も今日の診察で伝えられ、すべてOKでした。これで今年の診察、検査は終わりですが、あと肺炎の5年に1度の予防接種がありそうです。いつも管理されている状態の中になり、他のひどい刑務所医療と違って、医師・検査士・看護師の集団が検討しシステム化して電子カルテで管理する普通の病院のような医療体制があるので、高齢の私にとっては助かります(その運用の点で星野さんの件のような医療ミスの批判はあるとしても)。

お便りと「選択」など資料が届いて、コロナ禍の日本の医療・介護・福祉の現状を知りました。

(「どうなる医療・介護・福祉」「大型ショッピングモールが出来たことで、地方の商店街がシャッター街になってしまった……。これと同じことが今、医療・介護・福祉の現場で起きている」。今政治の方向が新自由主義市場化の改革の中にそれもあり、「小規模多機能型介護事業所」を「民間活力」で増やす方向だそうです。良心的にこれまで訪問介護やデイサービス単体でやってきた事業所はたちゆかなくなり、金儲け主体の大規模事業所に中規模が吸収され、大規模同士が合併し、巨大化していくのが見通せます。「安い定型サービス」として。人々の選択肢が置き去りに。それを乗り越え、見通し、地域の事業体は事業協同組合として、暮らし・福祉・地域の人々の多様な希望を受け止める良心的な事業体同士の力を育てようとしているのがわかります。政府の大企業優先に対抗する、生活当事者を陣地とした対抗社会形成には、生産・流通・消費総過程での変化が必要です。協議体、協同組合はその要の位置にあります。厳しい現実はすべての分野での闘いによって保墨を守りつつ改革が進むでしょうか。

12月21日 冬至は快晴。友人が“今”的風がどんな風に吹いているか知られるようにと「ハルメク」「婦人公論」「AERA」を送ってくれました。リラックスして読める本でありがたいです。

『AERA』の『時代を読む』は必読です」と、ホームレスの女性のことに関する記事。友人は「亡くなった時の所持金は8円。胸、痛くて痛くて」とあります。失業・孤立・生きよう働きうとしても生活出来ないコロナ時代の日本の厳しさに思わず“殺されしホームレス女性の手持ち金たった8

円寂しい日本”と零れます。「ハルメク」はついねいに読者の声と往復していて、こういう本が売れるのでしょうか。

送られた「かけはし」「思想運動」「解放」など読み、ブンドが失った国際主義・連帯が紙面に溢れて改めて改めてブンドの解体を実感しています。

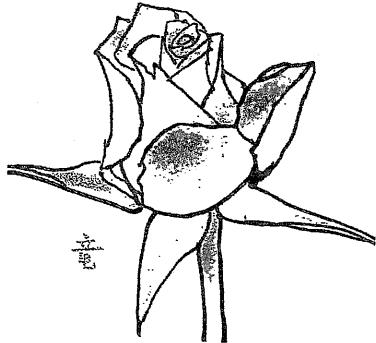
「党组织」でないということは、こういうことだ……と。

12月27日 明日朝この手紙發信です。12/28は仕事納めです。7月27日から始まった懲役刑務作業は二度の中止で、社会参加の第一歩は計画通りに進まず。度々の中止は社会では通用しない獄中社会生活でした。ふりかえると今年一年コロナ禍で無花果の葉が剥ぎ取られた人間社会だったようです。そんな中友人たちの協力支援でパレスチナ解放闘争史を書き上げ、入力編集を終えられたのは、私にとってはありがたいことで、感謝ばかりです。新年、オリンピック・デジタル一元化管理・コロナと危機管理が進み、政府の強権はさらに進みそうです。「桜」も「学術会議問題」もあまりに強引、あまりに民の声を聞かない菅政権はもつでしょうか。オリンピックを止め、コロナ被害者への税金の分入六配を！と願う新年です。来年は年を越えるとまた出所が近づきます。良いお年を！と祈りつつ。

12月31日 溜っている資料学習したり、「シオニズム」について2016年に書いた文章をリベラシオンに送ろうかと、手直ししたり、気付いたら、もう大晦日の点呼も終わりました。

「共産主義運動年誌2020年」では、「コロナ後」に浮上する社会問題～キャッシュレスについて（堀内哲）、「日本帝国主義の没落と韓国サンケン労組の闘い」（尾沢孝司）、「生協運動は、協同組合解体攻撃・階級社会とどう向き合うことが出来るのか？」（大杉仁一郎）など、獄に居る間に変化している社会をリアルに現認することの出来る文章は、学習になりました。ことに生協の「実態」と「今後」は、60年代に明大生協から鶴川生協を拓く時の理事の一人であった私のころの生協との大いなる乖離に驚かされました。

「流砂」18号は、コロナの緊急特集「“科学”は政治の上におかなくてはならない」で多くの方



の文が学習になります。「60年安保六〇周年を迎えた今」の座談会も実際の国会突入の当時の話。Yさんのお兄さんの話などためになります。

今年最後の手紙を2通受けとりました。早くも元旦の牛の絵入りの年始挨拶のはじまりのYさんの便りは、12月5日、土曜会報告です。「明大土曜会」60回記念として、土屋源太郎さんをお呼びして、いろいろお話を伺いました」と、あります。

もう一通は「オリーブの樹」編集室の、いつも入力して下さっている友人からです。コロナ禍の大変さが伝わります。友人の福祉施設では、職員に濃厚接触者が出てた。検査の結果陰性でセーフだったが、危機と背中合わせの福祉施設の現状は、実に厳しいようです。この獄中では、コロナの身近な危機感がないので、これまでのように何か頼んでしまう私ですが、推察もゆきとどきません。それに同世代は、一つずつ年を重ね「丈夫」と考えていた友人の様子、脊椎圧迫骨折、腰椎圧迫骨折、腸閉塞の入院と、みな大変。友人たちの大病を知る大晦日となりました。私自身は出所するころに認知能力が劣化しているのを恐れて、文章を今のうちにと記しているように、友人たちも、同様に、いろいろ抱えていることを改めて知ります。

ふりかえると、今年は何か、コロナ色という透明な壁と糸に絡めとられたような人間社会の一年でした。何かに覆われ監視されているような感覚の中で一人一人が、仕事、執筆、対話、集会、移動、愛情を新しく模索しながら再構成しようとする一年だったのでしょうか。生活出来ない人が出て当然です。「GOTO」ではなく、ベーシックインカムを考える以前に、毎月10万円「欲しい」と手を挙げた日本国民の住民に無条件に払うこと、これをまず実行してほしい。そうしないと社会が崩

オリーブの樹 第153号

れそうです。

「最高値」の株価は、日銀のだぶついた金やGPIFの年金基金運用変更のせいで、景気も社会も反映していないのですから。新年オリンピックやめて社会の再建の時では？ 菅政権の無策は続きそう。もつのでしょうか…。夜は丁度半世紀ぶりの「紅白」をTVで見る夜です。1970年、大晦日、紅白が終わるころ自宅に戻って家族と年越しそばとみかんで年越し。71年正月から会議続きで2月末には、ペイルートへ。丁度、50年目直にTVで見る紅白です。うーん、踊りと歌のシャウトのテンポと理屈っぽい詩のような歌詞、情熱的な割に無機質。こんな長くTVを見るのはやっぱり苦痛です。時代遅れの後期高齢者としては…。

2021年元旦 新聞が届き、選者らの「新春詠」が載っていて、永田和宏さんの日本学術会議の二首が心に残ります。“明かされぬ理由は誰もが考へるよおーく考へろよと睨まれるごと”“あのことと許したのがすべてのはじまりとわれら悔ゆべし遠からぬ日に”と詠んでいます。私も一首“嘘だった「アンダーコントロール」「モリカケ」も「改ざん」もありて長期政権”。

東拘のように正月のごちそうは、出ませんが、元旦には、一年に一個のみかん、ごはんは白米になります。昼膳に小さなお節料理が添えられました。15センチのパックにとっても小さな1~2cmの超ミニの13種（①いもきんとん②やさい浸し③かまぼこ④カズノコ⑤伊達巻き⑥昆布巻き⑦筍⑧椎茸⑨さやえんどう⑩黒豆⑪麩⑫湯葉⑬なます）です。

友人たちからの賀状もたくさん頂きました。ありがとうございます。「コロナ禍の新年」「来年の出所に向かた新年」、「去年のパレスチナ解放闘争史完成快挙！」など、みんなの声に励まされる新年です。

夜は、去年を振りかえり、又、来年の出所のことを考えました。今年は様々に学びたい。社会に出て、半世紀のギャップにまごつくことばかりでしょうが、ここで出来る準備を心掛けようと思っています。

1月2日 今日はリラックスの一日を決めてTVで箱根駅伝、切れ切れですが楽しみました。

夜は短歌、凡作ばかりですが。“新年のコロナ拡大人類の変革迫る神の福音”コロナは戦争にたとえたり、打倒するものというよりも、より大きな人類の危機を知らせてくれた福音だったと、一世紀後の人々は、感謝するかもしれません。人類がグローバル資本主義の悪弊から脱しようとすればですが。“福笑い何度やつても哀しい顔コロナ自肅の独り遊びば”、自肅の今の気持ちを一首に託しました。

1月4日 今日は、仕事始め。期待とはずれて、室内個別作業でした。新年には……と言っていたのですが、年末からずっと個室作業。粘土もペンキも禁止のため、他で作ったダルマのペンキ塗ったものを濡れ布でみがいて、ペンキのムラをスムーズにし、その後乾いた布で光らせます。あまり上手な作品でないので、ペンキのムラをとろうとするとペンキがはげたり、形が歪んで、製品としてはどうか……というのが多い。腱鞘炎なのでなかなかむずかしい作業です。

丁度今、夜7時前、賀状やお便りを頂き感謝しつつ読み始めたら高校時代の友人から新聞で住所を知って55年ぶりのお便りあり。びっくり嬉しく読みました。「転校して来て不安な中あなたが明るくやさしく接してくれたこと感謝でいっぱい」と。そんなやさしかった？ 気立ての良い仲良くしてた友人の一人。民生委員をやっているのは彼女らしい。友情はありがたいことです。お便りに励まされつつ今届いた賀状なども友人の顔を浮かべつつ読む至福の一時です。

1月6日 再び緊急事態宣言の気配。オリンピック中止し、まず補償を厚くしてから緊急事態を宣言してほしい日本です。核家族社会どんなに多くの人が生存の危機に方途もなく立ちすくんでいることでしょうか。今日は12月クリスマスの頃送って下さった資料などが届きました。遅ればせにその同封の手紙、メリークリスマスの絵も受け取っています。

資料PFLPのサイトで、旧友アンドゥルラヒム・マル副議長の逝去を知りました。ファタハやハマスまで彼を「偉大な民族的戦闘者として、彼の死を深く追悼する」と、称賛しています。私が彼と出会ったのは、71年のジュラシ山岳地帯の解

放区です。若松監督や足立監督と一緒に映画作りで、ゴラン高原からヨルダンのジュラシ——パレスチナ戦士の最後の砦——へ入った時です。のちにPFLP議長となるアブアリ司令官の下、文官や軍人参謀たちが10代の若者から40代のコマンドまで統率して、対ヨルダン軍、対イスラエル軍と対峙していました。彼は「マンローハ」と呼ばれていて、軍の前線を仕切っていたカードルでした。明るく戦闘的な若者。その後ジュラシは壊滅させられ、多くが絞首刑に晒されたPFLPのメンバーのうち、マンローハたち少ない人数が逃げのび、数が月後ベイルートに入り再会しました。以来マンローハは南部で指揮をしたり、対ヨルダン戦線作りに奔走していました。アブアリがPFLP議長として西岸地区で活動するために祖国入りを決めた時、彼はまたアブアリの下で闘い続けました。被占領下アブアリがイスラエルに暗殺され、その報復として、PFLPがイスラエル観光相でシャロンの盟友のセエブを殺害したこと、次の議長になったサアダトがパレスチナ刑務所からイスラエル領内に拉致されてしまいました。そのためマンローハは西岸地区ずっと議長の役割を担っていました。彼はまたアッバース大統領らのカドウミ PLO政治局長追い落としに抗して、PLO執行委員としても闘ってきました。大切な柱を失ってPFLPも衝撃でしょう。祖国の外で副議長の任にあるアブアハマド・ファードも当時からの友人ですが、同世代の同志を亡くして厳しい状況の中どうしているでしょう。若い世代、当時、みな結婚し子どもを授かり、代を繼いで解放を、と覚悟していたのを思い出します。きっと息子、娘たちがすでにその任を継いでいることでしょう。また、PFLPの去年12月10日のH・Pに「パレスチナの空で星になった日本のコマンド」の記事があり、リッダ闘争3戦士の戦いと岡本公三さんとのことを記しています。岡本さんがPFLPの仲間の支援、レバノンの友人たちの支援で元気な様子、うれしいです。

1月8日 さつき点呼後の「お知らせ」で「1/7～2/7 の約一ヶ月の『緊急事態宣言』を受けましたが、当センターでの変更事項はありません。通常通りの受刑生活を送って下さい」と放送されました。面会などの中止は無いので安心しました。

土曜会の報告も受け取り、60回目の土曜会の様子、土屋源太郎さんの話など興味深く読んでいます。

「砂川」と「沖縄」「統治行為論」(59年判決の「統治行為論」は15人の裁判官のうち、6～7人しか賛成せず、少数意見だったという調査官メモが2021年発見されたとのこと。ところが最終的に田中最高裁長官が米の意向や60年安保条約改定に入る前に終わらせようと介入し「統治行為論」判断になった)など話されています。

1月12日 連休明け。全国大雪の中、今日は雪がこちらには降りませんでした。午前中に和尚の新春法要。元気に年を共に越えたことを喜びました。土曜会も代表して面会下さっているのですが、旧友たちの話は出来ません。Hさんの店のこと気にし合いました。1月7日遠山さん50回忌、そして3月12日は命日として墓参を考えているとのこと。

刑務作業に戻り12月分の報奨金1時間13円30銭で898円とのことでした。

1月14日 小寒のデジカメ歌人のお便りは、寒中見舞い方々、冬の桜並木を遠景とした草津川。空が広く、元旦のこのアングルは、今年の広がりのよう。“本を閉じ眼を閉じ思う戦争を選びし日々をジョビタキ来る”“今年もこの通信を出すことが出来、とても嬉しい思います”とあり、こちらこそ、いつも風景や新しい知識を運んでくださる暦便りが楽しみがあります。Oさんの寒中見舞いも嬉しいです。春3月の出版、ぜひ読んでみたいです。

1月15日 去年12月に出版された『恋と革命』の死・岸上大作読みました。60年安保・ブントと共に立って詠んだ歌が多いのを、この本で福島泰樹著者の解説で知りました。良い好きな歌が多いのは、全共闘運動の時代の情熱と共通する歌が多いからでしょう。“意思表示せまり声なきこえを背にただ掌のマッチするのみ”“血と雨にワイシャツ濡れている無縁ひとりへの愛うつくしくする”は有名ですが、ブントの側にたつた歌には、“闘わぬ党批判してびしきに一本の煙草に涙している”“血によりてあがないしもの育まんああまた統一戦線をいう”“うつむきしまま列を組む

オリーブの樹 第153号

洗われて五月の樹々は瞳(め)に痛ければ” “プラカード雨に破れて街を行き民衆はつねに試される側” “胸郭の内側にかたき論理にて棍棒に背はたやすく見せぬ” “もうひとつの壁は背後に組まれていて<トロッキスト>なる嫉視の烙印” “地下鉄の切符に銛いれられてまた確かめているその決意” “学連旗たくみにふられ訴えやまぬ内部の声のごときその青” “装甲車踏みつけて越す足裏の清しき論理に息つめている” など。観念に殉じて予定に沿って自裁し、「ぼくのためのノート」が自死の実況記録のように絶筆。岸上が今も「生きている」のは、同時代の仲間たちの彼の本の出版や、福島さんら「無様な生き方」をした彼への共感と愛情、そして彼の歌の力です。読んでいると心に滲みます。

昨日から屋外運動は中止です。室内で体操30分も、刑務作業も。でも空調で寒くありません。14日から、ダルマ不良品修正のための粘土も室内に入るようになりました。磨き作業と並行してやっています。腱鞘炎には粘土作業がベターでよかったです。

「コロナ緊急事態宣言」が、補償も見通しもあいまいなまま地域拡大し、今度は補償の話よりも罰則の話が先に来る、この菅政権は国民をなめています。新自由主義も、ここまで「スマートさ」を欠けば、ただのファッショのよう。医学会連合、医学系136学会が加盟する学術会議が、緊急声明で「罰則反対」を訴えています。「科学的根拠が乏しいのに、患者・感染者の強制収容が法的になされた歴史的反省の上に成り立つことを、深く認識する必要がある」と。反知性主義の即物利権に聴



い政権は、また揚め手から攻めはじめるでしょうか。日本学術会議にしたように。

緊急事態宣言、まず補償を！ 刑事罰などとんでもない話です。

1月22日 コロナがまだ猛威の中、米ではバイデン政権の誕生。20日にすぐ太統領令13を発しましたとあります。日本も国会が始まり、論戦が始まっているのでしょうか。特朗普が去ったとしても、もともとの「米帝」のままなですから、予想し易くなつたとしても期待できません。国会ではオリンピックをやめてコロナ対策へと提言した志位委員長発言、罰則より個人含む保証の具体化を求めた「立憲」など、獄での少ない情報から日本の行政を見ています。岩田さんから各党派の年頭論文の載った機関誌、読みきれない！ 程届きました。他にも「労働情報」1000号目で、年末に終刊となった号も送って下さいました。アラブに居た時、高島喜久男さんを通して樋口さんや、高島さんの支えた高野実の話をいろいろ聴き、送られてくる労働情報も読んでいました。樋口さんが逝去された頃、もう廃刊になったのか……と思っていました。ずっと続いて1000号、今日まで持続していることに感動し読みました。高弊さんも書いています。

パレスチナ解放闘争史第二部は校正を終えて、WEBアップしてくれたようです。2020年に第一部も、9月からは第二部も入力編集して下さって、一区切りでき感謝しています。

他にもたくさんの資料。シモーヌ・ヴェイユ「展望われわれはプロレタリア革命に向かっているのか」も。刑務作業で読書時間が減っているので少しづつ読みます。Iさんが15日に送って下さった資料も交付されました。ヌーラ・エラカートの来日講演はなかなか素晴らしいものです。いろいろな資料に感謝です。

室内の梅の花はもう盛りを過ぎましたが、Kさんの庭の梅の蕾が小さく膨らんできたとのこと。梅は2~3月の花ですが、私の房に一月の花として届きました。めずらしく早い。写真にはデジカメ歌人の贈ったカレンダーを風格のある額に入れて飾ったというもの、その敷物はKさんの手織りですって。優雅な早春が部屋の一角にある風景です。

1月29日 今日から刑務作業に、ダルマの白ペンキが房内に入るようになりました。これで工場と同じように鍤付けまでの作業を除いて、粘土でダルマを正確な型につくり（この、工程が下手だと、不良品になる）その上で白ペンキを4回塗り更に濡れ拭きでペンキのムラや筆の跡をなくなるまで拭いた上で、乾いた布で磨いて完成です。それが出来るようになって「意欲的」です。唯、工場でもやっていたのですが、不良品の修正のみです。粘土のやり直し、ペンキ済みの不良品の修正、ペンキがはげたものの修正など完成させる作業が多い。鍤付けからやって自分で作るのとはちがいますが、不良品再生の「敗者復活」は、それなりに工夫できて、かえって「楽しい」。

「プチの大通り」127号受けとりました。かわいいヤギの写真の表紙。智子先生の九首「廃歌しひ過ぎゆく春」掲載から三首。”オキナワの海荒れて来し新年となりゆくこの国夜明けの血のヒカリ””まんさくやみちのく連山春の朝人びとの
生活始まる””若芽刈り黒き波光り小さき舟に
積まれゆく” みちのくで長寿を穩かに生きておられる荒井先生です。大雪の影響は、どうなのでしょう。

もうあの3・11から10年目の春近い…。由紀ちゃんも資料室作り、活動、ストレス解消のミシン作業と多忙で楽しげなエピソードも載っています。「大間の厚子さん」への共感とカンパを訴える荒井まり子さんの一文は、厚子さんの実情を伝えてくれます。「津軽平野に雪降る頃はヨー親父(おとう)一人で出稼ぎ支度」という吉幾三のこの歌が好きと、まり子さん。2,30m先もみえない昔前の故郷の冬の想い出とともに大間の厚子さんのことと思う。そこで厚子さんは、365日生活している……。「たちのき」を拒否し、大間原発の建設予定地で、たった一人がんばりぬいて逝った母親を継いで厚子さんは暮らし、居つづける。権利なのだ。『殺されたって誰にも分からぬ』とつぶやいた厚子さんの言葉が胸に突き刺さる。実際に厚子さんのお母さんのお子さんは不審な死を強いられたとまり子さんは書いています。住んでいる「あさこはうす」は、コロナの影響で薪も来ず、その薪ストーブに拾ってきた枝きれやら牛乳パックでしのぐ。プロパンガスは料理に使うだ

けで精一杯。電気も水道もない。太陽光発電の電気も吹雪では助けにならない。家のまわりで野菜を育て、浜に下りて少しばかりの海藻を探って袋詰めし、反原発集会等でカンパ代わりに買ってもらいうのが唯一の収入源。「厚子さんは雪国特有のおしゃがり(恥ずかしがり)で要領の悪いおなごだ」とまり子さん。窮状を訴えず、冬は30分かかる買出しのスーパーをどうしているのかと尋ねると「3000円以上買えば配達してくれるんだけど、そんなに買えないし」と厚子さん。自転車も冬は風と雪で使えない。まり子さんは、「しかし、見方を変えれば、一昔前の人人が当たり前にやっていた生活を厚子さんは当たり前にやっているだけだ。その当たり前を許さない者が莫大な金と権力を行使し、地球を滅ぼす原発を大間に建設しようとしているのだ」と「厚子さんを孤立させないことは、地球に生きるものにとって、とても大切なことだ」と訴えている。(カンパ送り先 郵便振替02760-3-66063あさこはうすの会)“雪嵐「あさこハウス」に舞う大間母継ぐ娘の強き意志読む”

1月30日 みごとな快晴。東京のコロナ感舞う染者もやっと七百人台。まだとても多い。休日はTVより読書。先週届いた情況2021年春号の白井聰さんの「新自由主義」の位置づけに共感しています。彼の「新型コロナ敗戦から『戦後国体』の解体へ」という一文で、これまでの論説をふまえて、コロナ下での危機を語っている。その中で危機のもう一つの源泉として、「新自由主義文明」を語っています。「新自由主義は、規制緩和や民営化を中心とする政治経済政策における一定の傾向をその本質とするという見方は改められるべきだとの思いを筆者は強くしている。……新自由主義は、イデオロギーとして資本主義の最新の段階に適合した文化様式として人々の価値観、人格、思考や行動様式を強力に規定するようになった。とりわけ2008年のリーマンショックがあっても依然として現代のイデオロギーのチャンピオンとして君臨しているのである。つまり新自由主義は、政治経済の問題である以上に精神文化の問題となっている」ととらえ「政治的無関心」というより「無社会」「一種の生の感覚の喪失」という状況も、新自由主義文明に特有のものとして分析されねばならないだろう」とまで言明しています。新自由主義

の富と権力、あくなき利潤の信仰は、第三世界から資本主義本国まで、新自由主義「文明」と呼ぶにふさわしい精神世界の時代をつくりだしてきたと言えると思います。身近なところでは、「大阪維新」に頗著な「改革」「人間社会によりよく」と峯ヶ崎にみられる排除と犠牲の上に成り立つ「ジェントリシティ」や、環境政策でもその思考行動様式に浸透しているようです。この流れに人類の普遍的な思想、人権、人民主権を基礎とする根源的な社会観に基づく社会の再構成を求める時代のはじまりとしてコロナ禍を捉えたい。

1月31日 早くも一月尽。50年前のこの頃、アラブ行きを決断して奥平さんと計画を立て、国際部のアメリカ組（「日米同時蜂起」のペントAGON突入を、どう米国革命グループとやるか）と、最後の打ち合わせをしていた頃です。アメリカ組の東大の加藤くんは、どうなったのだろう……と思わず思い出しました。壮大な夢に小さな自分たち。挑む感性は、やっぱり大切にしたい。もちろん、パレスチナやラテン米、東欧の友人たちが驚き「ファンタスティック！？」と大笑いした「ペントAGON突入」という意味ではないです。

そして今の、学生たちの動向を分析した「平成・令和学生たちの社会運動」（小林哲夫著・光文社刊）を読んでいます。「2010年代から2020年代へ学生が訴える」の第一章では、どんな風に学生達が社会運動、学園での活動に関わっているか、個々のエピソード風に触れています。コロナ禍のキャンパスで事業料返還を求めたり、環境、黒人差別などずいぶん自らの決心でたちあがり活動している学生たちがいます。私が驚くのは、激しい過激ともいえる大学側の管理体制の常態化です。東洋大の学生が竹中平蔵批判のビラを撒いたが、10分とたたず大学事務室に職員らにとりかこまれて連れられ、退学の脅し。「表現の自由には責任が伴うので何らかの処分で責任を取ってもらいます」と。ビラを撒いた船橋さんは、反論し、すぐSNSで事態を発信、マスコミに拡散され、東洋大など支援が、集まつたが、学生たちからは声がかからない。若い人の多くは、そういう教育の中で小学校から大学までごしているのでその結果でしょう。「駅前や集会を聞いたり、大通りをデモしたりするのは犯罪じゃないんですか？」と学生に

言われたある大学教員の驚き。「お上に逆らってはいけない」という風潮。60年代から、70年代の全共闘・反戦運動のラジカルな闘いを再現させまいと政府、公安警察、マスコミ、大学に至る教育のすさまじい結果を見る思いです。

また民青の現在の活動と日共との関係の変化も興味深い。かつて20万人いた民青メンバー推定一人弱らしい。でも、おかしいことをおかしいと声をあげるシニアが居る限り、継続的に若い人々は影響を受けつつ批判もし、様々に闘いつづけているようです。私たちも先達を批判しつつ、問題意識を開花させて闘ったのですから。この本でいねいに個人、SEALDs、民青、いわゆる“過激派”独自グループなどをフォローして生の声を中心によどめているので現実を知り、考えさせられる一冊です。

2月3日 立春！昨日は和尚の節分法要。土曜会や「祭」の健在健在徒闘を祈りました。郁子さんからの願いで1/29に吉村先生が亡くなられたこと、知りました。丁度気がかりで思い出していたころ…。御冥福を祈ります。2月は、50年前日本を発った…半世紀！

2月4日 今日は追い立てられる気分でNo.599を投函に提出しました。「オリーブの樹」153号のため、一月末までの日誌と「一月の歌」のまとめを送ったところです。歌の方は何かと気忙しく思考を集中して詠めず凡作ばかり。もっと自分と向き合って捉えつつ詠もうと反省。二月のお題は「浮遊」です。こんな一首を詠みました。

“三陸の波にたゆたう魂魄の叫びに寒月海に落ちたり”

2/1 付の歌で“「浮遊」という妙な御題を頂きて浮遊浮遊で一日暮れる”などという歌が零れて書き留めたのですが、安易にすぎ反省。そして「浮遊」という言葉と向き合っているうちに、今日「たゆたう（たゆとう）」として詠んでみたいと、三陸の一首が生まれました。海に写したような寒月は私の叫びで、地中海に落ちたように思えた、ある冬の日を想い三陸と重ねて読んでみました。今日受け取った12月の歌会の資料に刺激されたせいもあります。吉村先生「バルチのサソリ」と言われた彼にふさわしい一首をそこに見つけました。

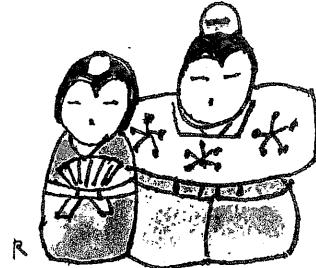
福島泰樹さん的一首です。

“眞福は祈らず星よ霧の夜の外灯漏れて瞬くよ
友よ” そう、眞福よりも連帶の挨拶こそふさわし
い。前に友の逝去を詠んだ一首ですが、私も一首

“獄窓の落暉を赤旗替わりとし歌いて葬送らんイ
ンターナショナル”

2月5日 リベラシオンの資料に、12月10日付PFLPのリッダ闘争48周年声明があります。たぶん党創設記念日に合わせて発した、「日本赤軍の同志たちへ」と国際主義の戦いを称える文。もう一つは1/16付のPFLP声明です。アッバース大統領の選挙実施に関する批判声明です。「民族的対話の前に選挙令が発されても分裂を終わらせる保証はない」とのタイトル。これまで続けてきた民族対話（ほぼすべての組織が参加）の合意のないままどう政治的、地理的分裂を終わらせる展望があるのか、と批判。全民族の（自治区のみでない）代表機関はPLOであり、合意すべき綱領の担い手である、自治区大統領でなく、全パレスチナ民族の大統領を選出する改正、ガザ・西岸地区に限定されない全人民の民族的利益を優先し、「オスロ合意」に制約されないパレスチナの政治・組織問題を解決する民族対話合意の必要性を訴えている。私が先に「動きだした中東」のコメントを記した時、1/18付の資料では「アッバースの選挙令発布にパレスチナ勢力、ハマスら含め賛意を表明」とあり、この民族対話の合意で選挙日程が決まったと理解しました。「選挙以前に民族対話で統一したプログラムのもとに選挙を行うべきだ」とPFLPの主張を知りました。コメントを訂正しつけ加えます。今後も獄の時差をこえつつ注視したい。

また、友人からのお便りで、私の人民新聞No.1738の新年挨拶コメント（原文は去年の日誌554の一部）あまりに一般的な政治的あいさつで、階級的視点に欠ける、との批判的助言を受けました。第一に人民新聞の読者は左翼、現場で闘う人々であり、第二に「人権を基礎に」はあまりにリベラル主義的であり、第三に「国連」を過大評価している点などです。そうか、日本の左翼は「人権」や「国連」は資本主義秩序として捉えているしその側面日本ではとくに強い。私は海外に居たせいもあるかもしれません、経済的・政治的・軍事的



に抑圧された人々が最後に普遍的な砦として闘う人権思想（国連の規定や世界人権宣言含め）は国際主義に通底する現代の価値を持っていると思っています。もちろんブルジョア的側面で「人権」が叫ばれることがあるとしても。また、国際的人民闘争の一環として国連を位置づけて（当初はPFLPも含めて国連を大事と考えず、「抑圧機関」ととらえていた。「パレスチナ独立宣言」から明確に闘いの武器と位置付けてきた）来た分、日本政府の人権の後進性は、様々国連のかんこく勧告なども利用して変革にいかしたいという思いなのですが……。国連がヤルタ、ポツダム支配秩序として始まったとしても。

2月5日夜、島崎さんの文庫本新著「だからここにいる—自分を生きる女たち」受け取れました。安藤サクラら12人の中で最年長が私みたい。そのオムニバス。婦人公論2007年11月から2008年1月まで掲載されたものとありますが、当時は公判でバタバタしていたためでしょう、始めて読む感じで、うーむと赤面しつつ読んでいます。他の人によりずいぶん長い。文章はこう書くのか……というような読ませる文。私のように1から10までダラダラ書くのではなく、1と5と10を書いて全体を読者が想像するような。また、数時間のインタビューも数行の生きたコメントだけ使う。何十人の人から聞きとり。でも、え?!がいくつか。誰かの証言「パレスチナは通説と違い重信さんが奥平さんに逆オルグされたんだよ」と、それはないけど。また「カダフィから第四夫人になってくれとプロポーズされた」云々。誰が言ったのか……。カダフィは第一夫人しかいない……。いろいろあるけど噂話、嫌な話含め読ませる文です。一方所だけミス「レバノンとヨルダンの国境に接するジュラシマウンテン」ではなく「ヨルダンとパレスチナ」の国境です。

動き出した中東 2021年

2021年1月24日 重信 房子

「トランプ時代」は終わって「バイデン時代」が始まることになる2021年。中東の当事者たちが新しい動きを開始している。

第一の動きは、パレスチナ自治政府（PA）のアッバース大統領が、1月15日今年の総選挙を宣言したこと。自治区内の立法府であるパレスチナ立法評議会（PLC）の選挙を5月22日に、大統領選挙を7月31日に、更に全パレスチナの最高決議機関であるパレスチナ民族評議会（PNC）選挙を8月31日に行うとし、関連機関にその準備を指示したという。ハマースを含むパレスチナ勢力も、その決定に賛意を表し、国連やEU、アラブ諸国も歓迎している。

しかし、PFLPは「民族対話」の前に選挙令が出されても分裂を終わらせる保証はない」と声明を発し、アッバース大統領の動きを牽制している。PFLPは、これまで継続的にほぼすべてのパレスチナ政治組織が参加して討議している「民族対話」の優先を求めている。ガザと西岸地区のみならず、全パレスチナ人民のための政治的組織的改組で、統一したプログラムの下で、PAではなくPLOを要とすべきだ、パレスチナ自治政府（PA）大統領ではなく、全パレスチナ人民の大統領を選べるようにすべきだ、と主張している。

「オストロ合意」に制約されない、パレスチナの問題を解決する「民族対話」の合意なしに選挙が行われることをPFLPは危惧している。分裂を乗り越えないままの選挙は成立しないというPFLPの見通しがある。

ファタハは、「民族対話」によって既得権が奪われることを恐れている。ハマースは、どうであれ、パレスチナ自治区（PA）の実態的な合法的権力を選挙で確保することが先決にある。今後、アッバース大統領の発した選挙令が国際社会、とりわけバイデン新政権向けのアドバルーンに終わる可能性もある。バイデン政権に期待し、すでにイスラエルとの共同を再開したPAである。

私はPFLPの戦略構想を理解し賛成しつつも、直面するPAの刷新は不可欠であろう。アッ

バースの選挙令通りに行われるとは思えないが、PAの枠で選挙をやる場合、中でも大事なのはPLCである。2006年総選挙でハマースが過半数を占めて以来、米国・イスラエルのハマース排除の介入がファタハとハマースの対立に拍車をかけて来た。16年ぶりの選挙となる。しかし、実現出来るか否か、不確定要素がある。ファタハとハマースの主導権・利害争いは、選挙のあり方を巡って深まるし、イスラエル・米欧によるハマース排除の妨害がある。

又すでにアッバース大統領は85歳であり、2005年の選挙当選の以降、大衆的信任を問うていない。ハマースのハニヤ政治局長が、大統領になる事を嫌い、イスラエルもファタハも選挙をやれずに来た。ファタハの対抗者は獄中のマル万・バルグーティなら互角だろうか。

私は、PLO執行委員のハナン・アシュラウイ（かつて「第三の道」党としてPLCに当選）に立候補して欲しい。又、ムスタファ・バルグーティ（パレスチナ民族イニシアチブ・PNI）は前回立候補したので、立候補するだろう。待ったなしのパレスチナ選挙。これを行わざには未来の全パレスチナの希望の一新は無い。しかも、不確かなまま、イスラエルの戦争によるいつもの妨害もあり得る。

第二の動きは、イスラエルの国会解散、3月23日の総選挙である。ネタニヤフ首相は権力維持の為、トランプとの共謀で選挙をこれまで有利に進めて来た。2019年以来4回の総選挙となる。

「ゴラン高原併合」「入植地併合」を「合法」とネタニヤフを支援したトランプ米国大統領は去った。予算不成立やネタニヤフ汚職裁判など連立政権崩壊に至り、再びネタニヤフは首相の座を狙う。「青と白」は、ネタニヤフと連立する事を巡ってすでに分裂し弱体化した。リクード内では、昨年党首選挙で争ったギデオン・サマルが、「新しい希望」党を結成し、汚職裁判の始まるネタニヤフ批判で人気を得ているらしい。選挙を巡る政局は、「青と白」の失敗から、右派のリクード、リクード分派

の「新しい希望」、極右のベネットのヤミーナ（前「ユダヤの家」）など、結局右派が連立を再現する事になる。反ネタニヤフ連合が勝利しても、入植地併合を求める勢力であろう。

第三の動きは、イランである。米国を除く「核合意」（JCPOA）の五カ国によるネット会合が昨年12月に開かれたが進展は無かった。トランプの影響で、これまでの合意にプラスアルファ（ミサイル開発やイランのアラブ人民勢力の援助の停止など）が主張されるのを、イランは警戒し、合意変更拒否を鮮明にした。そして、米トランプ時代の独自の制裁が解除されるまで核開発を拡大すると表明してきた。1月には、断固とした意志を示す為、ウラン濃縮の度合い20%実施を表明した。

第四の動きは、イスラエルとアラブ諸国の国交正常化が、UAEに示されたように、準同盟国並みの全分野に広がり、イスラエルと湾岸諸国の財と技術、新自由主義経済圏の動きが始まっている事である。そして、第五に、サウジアラビアら四カ国が反イラン包囲・イスラエル共同の為に、カタールと国交正常化を果たした事である。カタールは、もともとサウジアラビアに併合されるのを嫌って、米軍基地を置き、イランと通商し、トルコの軍事基地もある。更に、サウジアラビアと対立するトルコの存在は、米国政府・EUとも対立しつつ、地域覇権を求める動きは「カゴルノカラバフ」同様続くだろう。

こうした2021年の新しい動きは、2020年の新型コロナウイルス禍の情勢下での帰結である。それはトランプの「中東和平案」（トランプ政権の名を借りたネタニヤフ・シオニスト案）と、対イラン戦争包囲に特徴付けられる。20年1月ソレイマニ司令官殺害、対イラン核施設への爆破、核物理学者殺害と、米国・イスラエルの挑発が続いた。戦争挑発に反発するイラン軍が動けばそれを叩き潰すことで、トランプ大統領再選の夢を描いたかも知れない。「反イラン包囲」の名で、イスラエルとアラブ諸国の国交正常化は一部実現した。これは、古くからの米国・シオニスト・イスラエルの「戦略プラン」である。すなわち、中東地域に於ける西欧型資本主義の経済・軍事・技術・文

化中心としてのイスラエルを育成することである。それはイスラエルの安全保障上、占領地併合の必要性を認めたまま、アラブ諸国との国交を正常化させる。

「パレスチナ問題」は、地域のアジェンダとして「非武装」のパレスチナ人居住区を確定し「アラブ・イスラエル紛争」を終わらせる。その形は「自治」でも「国家」でも統制出来る。「パレスチナ難民問題」は、彼らの住む国に同化させ、国籍を与えて終わりとする。エルサレムは、イスラエルの主権の下でイスラエル・ヨルダン・サウジアラビア・パレスチナを含む管理委員会をもって、イスラーム聖地を維持させる。

私は、パレスチナ解放闘争・シオニズムの歴史を記しながら、上記のようなシオニスト戦略は元から明瞭であったと分析してきた。これは現代の「鉄壁戦略」である。イスラエルを不動の強国化し、アラブ側が手も足も出ない状態にして於いて、「和平」を考えるという、かつてジャボチンスキーがパレスチナ住民たち、アラブ人たちを描いた図である。それを「パレスチナ住民」では無く、「アラブ諸国」に適用する現代版である。ジャボチンスキーは、自力強国化を説いたが、現在のシオニスト強国は米国政府と国際ユダヤ資本の力によって立っている。

2021年中東は胎動を開始している。ロシア・トルコ・イラン・イスラエルの絡み合った動きが地中海から紅海ペルシャ湾まで危機にある。バイデン米国大統領の中東政策は、オバマのそれよりも期待出来ない。バイデン政権は、トランプによる行き過ぎた親イスラエル政策を踏襲する事も多いだろう。

だからこそ、パレスチナ側は、「オスロ合意」を破棄し、原則的な反占領の闘いと民族統一選挙を力に未来を再構築することだ。その上で、米国仲介ではなく国連総会を中心とする国際社会を基盤に、政治的再生から和平交渉の扉を拓くことだ。



トランプ時代からバイデン時代へ

米国の中東政策について(付記)

「オリーブの樹」152号の「トランプ時代からバイデン時代へ」の3の15行目以下に以下の文章を欠落させてしまいました。お詫びし、ここに付記します。

カマラ・ハリス副大統領は、イスラエルに対する強い支持者として知られている。2017年にはネタニヤフとも会談したし、夫がユダヤ人であるせいか、よくイスラエルを訪問していたらしい。ハリスは言う。「イスラエルは決して党派的な問題であつてはならない。私が上院議員である限り、イスラエルの安全と自衛権に対する幅広い超党派の支持を確保する」と。そして、また「国連の反イスラエルの偏見と闘う」と述べている。本文で述べたオバマ政権の2016年12月の安保理拒否権行使せず、イスラエルの入植地批判が採択されたことには反対し批判した。BDS運動に反対し、ニューヨータイムズの2019年6月19日のイスラエルの人権問題に対する質問に、ハリスは、同じ民主主義の価値観を持つイスラエルに人権問題ないと答えていた。

その一方で彼女はユダヤ国家と民主主義を保証する唯一の道は二国家解決だと主張する。2020年11月3日のミドルイーストモニターによると「パレスチナの人々の経済的及び人道的支援を回復し、ガザで進行中の人道的危機に対処し、東

エルサレムの米領事館を再開し、ワシントンでのPLOミッションの再開に取り組むために迅速な措置を講じます」とハリスは述べた。

また、サウジアラビアにはカショギ問題や人権問題で、厳しい主張を繰り返してきた。少なくともバイデン政権になれば、トランプ政権がストップしたUNRWAの分担拠出金の支払いは為されるだろう。「イスラエルがどんな政策であれ米国はイスラエルを守る」という、これまでの民主党政権を踏襲した動きを示すだろう。

152号の誤植の訂正とお詫び

- 3頁左列上から15行目 友■人→友人
- 3頁右列下から14行目 場所は→場所は港
- 7頁左列上から11行目 に娘が→な娘が
- 9頁右列上から3行目 同志→同士
- 9頁右列上から4行目 強調→協調。
- 10頁右列下から20行目 歌詞→歌誌
- 11頁右列下から6行目 中段→中断
- 14頁左列下から1行目 「の米国」トル
- 17頁左列下から20行目 大義という→大儀」という

後記

今回は、準備が悪くて、痩せた機関誌になってしまいました。ご期待に沿えなくてすみません。このところ書いているのは重信さん一人で、孤軍奮闘と言ったところです。支援される側がせっせと書いています。少し歪んでいたかなと思っています。この問題を解決するのは、読者のみなさまです。どんな話でも構いません。と言っても他人の悪口は禁止です。皆様の周りで起こる様々な出来事や面白いエピソード、時には少し悲しいこともあるかもしれません。それらをお知らせいただけたら、共有することによって、お互いに前に向かって生きていく力になるのではないかでしょうか。そうした出会いが広がることで、お互いに支え合えるのではないかでしょうか。そういう広場になれたらいいなと思っています。1年後には社会人になる重信さんへの生きた生活情報がきっと支えになるのではないかと思っています。皆様どうぞお力を貸してください。下記の支える会宛か、私宛のメールでお送りください
(harukureba@yahoo.co.jp)

重信房子さんへの郵送アドレス 〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2-1-9 重信房子

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター 気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

発行価格 500円